



万里一空

御津中学校 校長室だより
令和8年3月6日 No.13

令和7年度 豊川市立御津中学校卒業式 式辞



春、弥生。心と目をやれば、木々や草花はたくましく芽吹き、別れと出会いの季節が訪れたことを告げています。本日、この佳き日に、豊川市副市長 桑野研吾 様をはじめ、ご来賓の皆様のご臨席を賜り、厳粛な中にも心温まる「第79回 豊川市立御津中学校 卒業証書授与式」を挙行できますこと、壇上からではございますが、心より厚く御礼申し上げます。また、保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。義務教育9年間を終え、立派に成長されたお子様の姿に、感慨もひとしおのことと存じます。今日まで注いでこられた深い愛情に敬意を表しますとともに、これまでの本校への多大なるご理解とご協力に対し、改めて厚く御礼申し上げます。

さて、101名の卒業生の皆さん。卒業おめでとう。先ほど、私は皆さん一人ひとりの目を見て、卒業証書を手渡しました。これまで37年という長い年月、教壇に立ち、多くの卒業生を送り出してきましたが、このように誰一人欠けることなく、全員に直接証書を手渡せたことは、これまで3回しか見たことがありません。皆さんが今日、誰一人欠けることなくこの場に揃い、証書を受け取ったこと。それは当たり前のことではなく、皆さんが3年間、お互いを思いやり、支え合って辿り着いた、一つの『奇跡』なのです。本日、愛知県内434校が同時に卒業式を行っています。その中で、これほど美しい光景に出会っている幸せな校長は、私だけかもしれません。私に「最高の光景」を見せてくれて、心から感謝します。本当にありがとう。

こんな素晴らしい皆さんに私から最後のメッセージをお伝えします。皆さんが、この三年間、胸を熱くした感動、人知れず流した涙、そのすべてが、皆さんの「かけがえのない財産」です。そしてその財産を糧に、新たなステージへと歩み出そうとしています。しかし長い人生です。常に順風満帆とはいかないかもしれません。そんな時こそ、この御津中学校での学びを思い出してほしいのです。「生徒がつくる授業『みかく』」には、これ

からの予測困難な時代を生き抜くための「神髄」が詰まっています。「AI時代において、人間にしかできない強みとは何か。」…この問いに対し、皆さんが社会の担い手として、持続可能な未来を拓く力を養えるよう、我々教員と共に実践してきたのが、「みがく」です。「四つの話し合い活動」や「生徒授業協議会」を通じ、多様な価値観に触れ、葛藤し、納得解を導き出してきたプロセス。そこで養われたあなた自身の「サーチエンジン」それは、膨大な情報に流されることなく、あなた自身が正解を描き出す「揺るぎない知性の羅針盤」です。この羅針盤こそが、正解のない荒波の中を突き進む皆さんの確かな指針となるのです。

それでも、もし心が折れそうな時は、この言葉を思い出してください。『鬼滅の刃』第172話。竈門炭治郎はこう語りました。「一番弱い人が、一番可能性をもっているんだよ」と。炭治郎は、己の不甲斐なさに幾度も打ちひしがれました。しかし、彼は決して足を止めなかった。彼が言う「弱い人」とは、自分の未熟さをありのままに受け入れ、それでもなお理想に向かって立ち向かおうとする人のことです。

それでは、なぜ「弱さ」が「可能性」となるのでしょうか。一つは、そこに無限の「伸びしろ」があるからです。己の足らざるを知るからこそ、現状を打破する真の力が生まれます。二つ目は、謙虚に「知恵を絞り、努力できる」からです。才能を過信せず、他者の言葉を真摯に受け入れ、どうすれば困難を越えられるかを手立てで補おうとする。つまり「弱さ」とは、「自分を変えようとする渴望」であり、「知恵を絞り、他者と手を取り合うための原動力」となるのです。またそれと同時に、他者の痛みに寄り添える「真の強さ」を持つことができます。その優しさと強さが融合した豊かな感性こそが、これからの社会をより温かく変えていくのです。

卒業生の皆さん。あなたたちの前には、無限の航路が広がっています。どうか、御津中学校で磨き上げたその知性と、仲間と共に葛藤した日々を誇りとし、粘り強く、しなやかに歩いていってください。そして、いつの日か素敵な大人になって、この素晴らしい御津町を、そして日本を創り上げてくれることを祈念し、式辞といたします。

令和8年3月6日

豊川市立御津中学校長 峯村 邦泰